

健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会

第 26 期・第 6 回議事録

日 時：令和 7 年 5 月 20 日（火）19:00～20:40

場 所：オンライン会議

出席者：西村ユミ(委員長)、森山美知子(副委員長)、井上智子、大久保暢子、坂下玲子、亀井智子、神原咲子、片田範子、田高悦子、永井由佳里、手島恵、中村征樹、山本則子、吉沢豊予子、仲上豪二郎、綿貫成明、三重野英子

欠席者：熊谷晋一郎、法橋尚宏、真田弘美、新福洋子、浅野みどり

【報告事項】

1. 非公式分科会の報告

・西村委員長より、非公式に行われた分科会会議の日程、参加者、議事録（案）について、以下の通り説明がなされた。

日 時：令和 7 年 5 月 4 日（火）16:00～18:10

場 所：オンライン会議

出席者：西村ユミ(委員長)、森山美知子(副委員長)、井上智子、大久保暢子、坂下玲子、亀井智子、神原咲子、真田弘美、新福洋子、仲上豪二郎、手島恵、中村征樹、三重野英子、山本則子、吉沢豊予子、綿貫成明、浅野みどり、

欠席者：片田範子、熊谷晋一郎、田高悦子、永井由佳里、法橋尚宏

1) 第 194 回総会の報告 総会 | 日本学術会議

- ・西村委員長より、第 194 回総会の内容が報告された。
- ・上記の報告を受けて法人化、および懸念点、今後の対応について委員間で質疑応答がなされた。

2) 「意思の表出」の申請に対する科学的助言等対応委員会からのコメントと今後の予定（資料 1, 2）

- ・西村委員長より、資料 1-1（助言書）、1-2（調査結果）に基づき、科学的助言等対応委員会から返答があった旨とその内容が報告された。加えて、資料 2（意思の表出の申請書）に基づき、意見表出の骨子案が説明された。

3) 第 26 期「未来の学術振興構想」の改訂に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募等について 未来の学術振興構想（2023 年版） | 日本学術会議（資料 3）

- ・西村委員長より、2023 年 9 月に策定した提言「未来の学術振興構想」の説明がなされた。構想の中のグランドビジョン⑤生命現象の包括的理解による真の Well-being の創出の NO34 が、ケアサイエンス分科会の提案（看護学の内容含む）である旨、未来の学術振興構想の改訂に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募が開始になった旨も報告された。

4) 各班（A、B、C）の進捗報告（各班からの資料）

- ・森山副委員長より、A 班の活動報告について資料を用いて報告された。主として A 班担当の第 2 回シンポジウムの詳細について説明がなされた。人選について、質疑があった。
- ・西村委員長より、B 班の活動報告が資料を用いてなされた。第 3 回シンポジウム内容、および見解の内容について検討しており、IPE の現状、および情報を学んだ高校生のリテラシー等について順

次、勉強会を進めていく。

- ・ B 班の亀井連携委員より、JANPU の連携校を対象に「多職種連携教育/テクノロジー活用教育」に関する実態調査を行っていること、大久保連携委員より、5 月 12 日締切で現在 67 校の大学から返答が収集出来ている旨の説明があった。
- ・ 山本連携委員より、C 班の活動報告が資料を用いてなされた。来年 8 月を目途にシンポジウムを検討した。CBPR とシチズンサイエンスの定義や意味の違いを検討し、加えて特別講師を交えて地域共創、ヘルスケア共創の観点から情報共有する会(5 月 20 日)を予定している報告があった。

5) 分科会幹事会からの提案について

- ・ 西村委員長より、American Academy of Nursing に対応できる日本の組織が必要であるという声があったこと、これを受けて、組織を新たに作るよりも、今後の少子化や労働形態なども考えた対策、例えば、学協会の統合などが将来的に必要なとの意見があったことが報告された。
- ・ 本意見を受けて、今後、学協会の思い切った見直しと整理、看護学の組織のあり方などを意見交換することとなった。

2. 勉強会

- ・ 山本連携会員から C 班主催の勉強会の趣旨が説明された。
- ・ 神原連携会員より、永井連携会員の講義を拝聴し、勉強会とする目的の説明がなされた。
- ・ 永井連携会員から、講義の前に CBPR のジャーナルについては、作ってしまえばよいのではないかと思うとの意見が聞かれた。
- ・ 永井連携会員から。「創造性に関する諸説（ヘルスケア人材の育成に資することを期して）」のテーマで以下のような講義があった。
- ・ 「知る・学ぶ」、「考える⇒共創」に違いと共創の重要性、「創造性について」「共創性について」、mini-c, little-c, Pro-c, BIG-C の関係性、内発的動機付けの、創造性を培う教育として GIFTED 教育、STEAM 教育などがあることが説明された。
- ・ 人間の学びの構造は、洞察⇒行動⇒振り返りの循環で、創造性のある、成長する人たちの学びの構造である。Well-being2030 の社会を作るためには、ダイバーシティな共創社会が重要である。
- ・ Deep Thinker の育成がリーダーの育成につながる。共創型のリーダーシップが必要。
- ・ 未来洞察、新価値創造（イノベーション）が重要であるが、未来を知っている人は存在しないことから、未来洞察、新価値創造はどのように培っていけばよいのかが課題である。
- ・ 「知識創造モデルとして SECI モデルが有名であり、知識創造プロセスの観点から、「場の共有」が重要であり、その場として、ヘルスケア人材共創として重要なのでは？
- ・ 講義を受けて会員間でディスカッションを行った。

以上